



紹介者

鈴木 正俊

ミライト
取締役会長

石塚 達郎

公益財団法人日立財団
理事長



子どもたちの教育は社会の大事な役目

昨年始めた財団での活動、同友会の委員会や経営者出張授業などを通じて、小中学校の教育のことを考える機会ができました。

「自ら考え仲間と相談して課題発見と解決策」を創り出す「日立みらいイノベーションプログラム」を公立小学校（高学年）4校に提供し、2学期の4カ月間合計14時間を、教員10、企業講師4で分担しています。児童の素晴らしい成長と教員の皆さんの熱意に毎回の出張授業で感動します。自分の学校の中の課題を見つけ、班内での議論や調査分析を通じて課題解決し、「廊下を走るのをやめる」「清掃用具の過不足をなくし、十分清掃する」など身近な課題を立派に発表します。

若手企業講師のビジネス経験からの助言を活かし、内容がより深く濃くなっていく姿は、頼もしい限りです。グラフ・表の使用や別の授業で一度だけ学んだパワーポイントを使いこなすなど、スポンジのような頭脳の吸収の素晴らしさを実感します。これがアクティブラーニングの一つなのだと理解しました。学校独自や企業、地域との連携で、「これが小学校での普通の授業」になる日が待ち遠しいと思います。

教員の方々と接する中で、企業と別世界のIT環境を知りました。例えば、メールでは「アドレスは学校で一つ、個人用はなし」などです。国が進める全児童分タブレット準備や通信インフラ増強は大きな前進ですが、教員・学校運営の施策は多くはないようです。高年齢層IT苦手者へのサポートや、「若く実力のあるCIO」を教育の管掌部署に配置、教育と学校運営両方の幹太いIT・セキュリティ施策立案・実行が急務でしょう。民間企業からの人財面の連携支援と受け入れも重要です。自治体・学校・私公立間で大きいIT格差は、予算とリーダーシップ人財の差ではないでしょうか。

また、「目指す教育の姿のビジョン」確立と社会での共有をベースに、より現場感ある「教員が授業に専念する学校運営や業務の分担の抜本的な見直し」をすべき時期であり、社会としてのコスト負担の決意も必要と思います。国内外に多くの先進好事例があるでしょう。これらが一番大事なのかもしれません。

将来を担う子どもたちの成長をしっかり支えていけるよう考え行動したいと思います。

▶▶ 次回リレートーク

塚本 英彦

日本信号
取締役社長